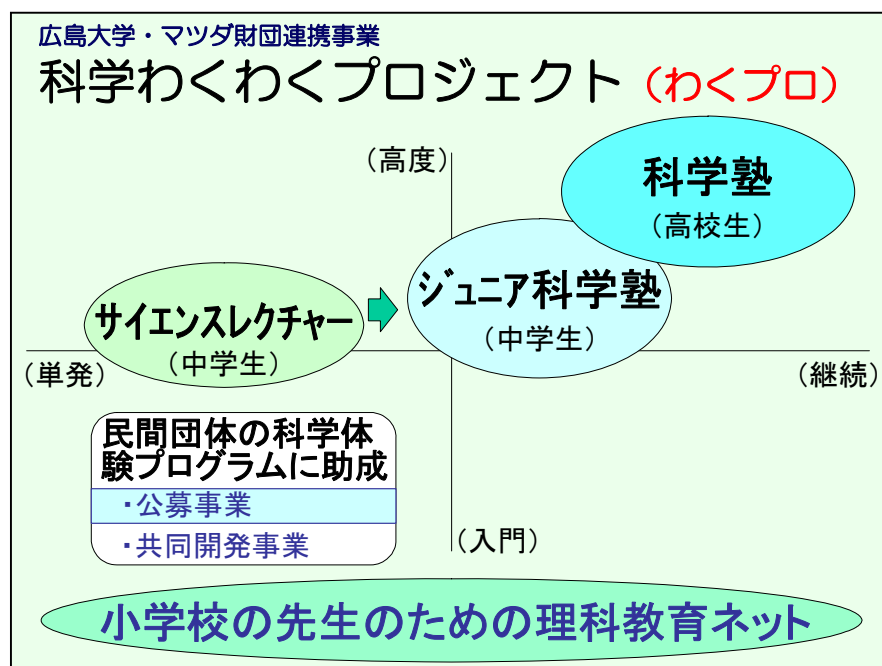


広島大学・マツダ財団連携事業

# 科学わくわくプロジェクト (わくプロ)

平成 19 年度事業実施報告書



広島大学 科学わくわくプロジェクト研究センター

## 目 次

I	科学わくわくプロジェクト（わくプロ）の概要と意義	
1.	わくプロの意義と特徴	2
2.	わくプロの経緯	3
3.	科学わくわくプロジェクト研究センター	7
II	平成 19 年度の事業報告	
1.	全体事業の概要	9
2.	各事業別の概要	
(1)	サイエンスレクチャー広島会場	32
(2)	サイエンスレクチャー福山会場	37
(3)	ジュニア科学塾/科学塾	42
(4)	小学校の先生のための理科広場	49
(5)	わくプロ研究交流会	56
(6)	わくプロ・ウェブサイト	57
3.	全体事業の評価	58

# I 科学わくわくプロジェクト（わくプロ）の概要

## 1. わくプロの意義と特徴

科学わくわくプロジェクト（わくプロ）は、マツダ財団と広島大学が連携して、青少年の健全育成と科学技術の振興をめざして実施する事業です。

その意義と特徴は次のとおりです。

わくプロの意義と特徴

- 現場の教員の議論により生まれたプロジェクトであること
- 地域の財団と大学との連携事業であること
- 多様な事業で構成され地域のネットワークづくりをめざしていること
- 教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待されること

### (1) 現場の教員の議論により生まれたプロジェクトであること

わくプロは、平成14年度における幼小中高校と広島大学の教員や科学館館長などによる半年間にわたる議論から生まれました。

18人のメンバーによる1回当たり4時間程度の議論を合計5回開催し、教育現場における科学教育の現状と問題点、取り組むべき方向性、事業化の基本的な考え方、事業アイデアと事業の進め方をまとめました。

これにより、現場の実態に即した、実効性のあるプロジェクトが生まれました。

### (2) 地域の財団と大学との連携事業であること

わくプロは、地域の財団が資金を提供し、広島大学がその施設、設備、人材（教員、学生）を提供して、連携して行う事業です。

大学側としても、特定教員個人のプロジェクトではなく、理学部、教育学部など学内横断的な取り組みとして対応するという点に大きな意義があります。

大学の持つ知的資源が地域の資金と組み合わせることにより、地域の価値を高めていく、意義ある連携事業が生まれました。

### (3) 多様な事業で構成され地域のネットワークづくりをめざしていること

子どもの理科離れだから科学教室というのではなく、現状と問題点、民間団体と大学の特性などを踏まえて、現実的できめ細かい複合的事業群が生まれました。

広島大学は一定レベル以上の科学教育を担うとともに、基礎レベルの科学体験教育については、共同開発型支援事業など民間団体の活動を支援します。これにより、地域で科学教育に取り組む様々な立場の関係者のネットワークづくりの受け皿（プラットフォーム）役もめざします。

### ○ 教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待されること

わくプロでは、教育分野に高い評価を得ている広島大学の特性を生かして、専門的な視点からの成果評価を行い、それをわくプロ事業の発展に反映させるとともに、教員をめざす学生の教育や教育法の開発などにも反映させることとしています。